

◆長谷川 權選

- 困こまやまた新あらたしき摩ま天てん楼ろう (東京都目黒区) 西村 嘉禮
- 火ひの神かみの舞まひひはしづかに夜よの神かみ樂がく (春日市) 宮原 孝一
- 風かぜ花はなやアあンんテてルるセせンんの世よ界かいより (松阪市) 石井 治
- 憤いきどお然ぜんと泣なる姿すがたや今いま朝あさの富とみ士し (東京都文京区) 片岡 マサ
- 大おほ根ねの次つぎも大おほ根ねおおでん鍋なべ (東京都足立区) 小山 公商
- 枯か草くさの吹ふかかれて己おれが音ねをいだす (厚木市) 北村 純一
- 牡うし蠣かき小こ屋やに数かずへされない牡うし蠣かきの殻か (東京都世田谷区) 須藤 渉一
- ししつしつしへへむむ一いっ匹びつの蠅は日ひ向むかいは (高崎市) 本田日出登
- ままつまつまたたううなな社しゃ会かいははいいつつここ寒か鴉あ (本巢市) 清水 宏晏
- 老おの春はる酒さけ一いっ合がのわが命いのち (青梅市) 市川 蘆舟

【評】一席。次々と建つ超高層ビル。「困や」が颯爽と。二席。火の神だからいい。「しづかに」が生きている。三席。「白鳥の王子」「雪の女王」、いろんな童話を想像したい。十句目。一合の酒で幸せ。人は本来こんなにつつましい。

◆大 申 章 選

- ししぐしるるや安やす住じ敦とんが改か札さに (名取市) 相澤ひさを
- 冬ふゆ木き立た鳥とりのジじャャンンググルルジジムムと化まじ (関市) 砂金 眠人
- ウウククラライイナナよよりの嘆なげきか虎とら落お笛ふえ (今治市) 横田青天子
- 流なが星ほしの一瞬しゆんを待まちつ寒ささかな (箕面市) 櫻井 宗和
- 墓かぶといいふ最さい後ごの家いえよよ冬ふゆ銀ぎん河が (寝屋川市) 今西 富幸
- 落お葉は風かぜフフラランンススデデモモををたたのししみみぬ (帯広市) 小矢みゆき
- 在あららふふなほなほ筋すぢトトレレ年ねん暮くるる (敦賀市) 中井 一雄
- 山やま眠ねるる如ごと何かななるる夢ゆめの中なかららん (昭島市) 大関 崇央
- 綿わた虫むしへへははななししかかけけたたききここひひととつ (高砂市) 富田 卓
- 無む住じ寺じの鐘かねは撞つかかれれずず大おほ晦く日にち (名古屋市) 池内 真澄

【評】第1句。安住敦の代表作「しぐるるや駅に西口東口」を踏まえる。懐かしい。第2句。冬木立は鳥たちの「ジャングルジム」、寒さに負けず飛び回る。第3句。虎落笛の響きにウクライナの悲劇を聞き取り、一日も早い戦争終結を心より願う。

◆高山れおな 選

- 寒さむ卵たまご割わりる音ね続つく大おほ広ひろ間ま (いわき市) 岡田 木花
- 骨ほね格かくの危あやううくくななりりぬぬ冬ふゆ籠かご (東京都文京区) 夏目 そよ
- 庭にわ隅ぐもに鳥とりの運うびびし夷あま千ち阿あ (町田市) 河野 奉令
- 寒さむの蜘蛛くまじ心こころ優やさししき思おも考こう体たい (神戸市) 豊原 清明
- 鳥とり死しんで鳥とりの絵えをかいい冬ふゆ青あお空ぞら (日立市) 川越 文鳥
- 寒さむ昇あ七なな億いっぴやくドドルルの孤こ高たかかかな (岡崎市) 沢 博史
- むむききりりんんででななかかののひひととつつががううささききりりんん (杵築市) 長野なをみ
- 虎とら落お笛ふえこれこれは地球ちきゅうの回まわるる音ね (枚方市) 秋岡 実
- 短みづか日ひの午ご後ごは逆さか算ざんして使つかふ (泉大津市) 多田羅初美
- ポポロロをを着きし骨こつ董とうの身みでポポロロにに (水戸市) 加藤木よういち

【評】岡田さん。ユニークな着眼。何やら昭和の社員旅行みたいではある。夏目さん。「骨が」ではなく、「骨格の」としたことによりイメージ性が生じた。河野さん。鳥の糞に含まれていた種から生えたセンリョウが、美しい実をつけたのだ。

◆小林 貴子 選

- 冬ふゆ病びやう棟むねハハンンドドベベルル隊たい到たう着ちやくす (厚木市) 大野へんろ
- 短みづか日ひややつつかかぬぬ諦あきらめめつつけけるるべべく (苦小牧市) 齊藤まさし
- セセーータターーはは嫌きらひひかかぶぶるるのの嫌きらひひななり (和歌山市) 見奈美輝彦
- 冷ひやえててゆゆくく夫つまと訣あ別わかれれ献けん体たい車くるま (東京都練馬区) 橋本 栄子
- 銃じゆうの音ね子こ供どもの涙なみだ冬ふゆの川がわ (浜松市) シュエイイアウン
- 水みづ鳥とりの先まへ浅あ瀬せより始はじめめたり (岩国市) 江見すえ
- シシククララメメンンわわたたししの部ぶ屋やに似に合あははなない (葛城市) 山本 栄子
- 冬ふゆ蜂はちや拒き否ひ権けんといいふ落おしし穴あな (前橋市) 平野 文
- 朝あ刊かんののずすととんんとと届とくく初はつ旦たん (大津市) 星野 暁
- 傷や多おほきき住じ診しん鞆たもと木きの葉は髪かみ (いわき市) 佐藤 朱夏

【評】一句目、今日は病院でハンドベルが演奏される。みんな楽しみ。二句目、諦められない思いはあるが、日暮れが来るのでリセットしよう。三句目、私もそう思っていたが、先に俳句にされた。四句目は身が引き裂かれるように悲しい句。